

「新しい課題への挑戦」



副学院長 藤原導夫

お茶の水聖書学院(OBI)は1991年に誕生し、2001年には新生OBIとして再出発いたしました。そして、昨年11月には多くの方々のご出席をいただき「創立15周年感謝の集い」を開催することができました。主の導きと多くの方々のお祈りとご支援を

頂きながらここまで歩んでくることができたことを心から感謝申し上げます。

OBIがこれまでの15年間に果たしてまいりました教育活動を通して「主と教会に仕える」ということは、これからも終始一貫して変わらないOBIの使命であると



考えております。しかし、その働きをこの時代に、この日本の社会において、どのように展開していくかということでは、常に柔軟な姿勢で対応していかなければならないと思わされております。

最近、「2007年問題」という言葉をよく耳にするようになりました。いわゆる「団塊の世代」の人々が定年を迎える時期が到来し、この時期に企業は多くの人材を失い、社会はこれらの退職者に対する受け皿を整えていかなければならないという問題です。

クリスチャンの方々が退職後にどのように生きていくのかということに対して、OBIはこれまで微力ながら取り組んでまいりました。これまでも、退職後にOBIで学ばれ、教会の良き信徒リーダーや教会学校教師として、あるいは牧師、伝道師、勧士(かんし)などとして用いられ、働かれるようになった方々が多くおられます。そのような必要を覚えておられる方々や諸教会のために、OBIはあらためてその受け皿としての自覚を深め、その教育内容を今後一層充実させ、多様で豊かなも

のとするように取り組んでまいりたいと思っております。

OBIでは「ネットコース」が2005年春から始まりました。すでに数名の方がそこで学んでおられます。ネットコースはインターネット、コンピュータを用いて、いつでも、どこでも、自由に学ぶことのできる学習システムです。これまでOBIの働きは、地域的には首都圏、時間的には週日の一定した時間帯に限られていました。しかし、ネットコースではそのような制約がなくなり、日本の津々浦々のみならず、海外の方々にも届くものとなり、時間帯も学習者の都合の良い時を選んでいただけるようになりました。このような「新しいぶどう酒は新しい皮袋に」ということを思わせられる新規の取り組みにも大胆に挑戦してまいりたいと願っております。

OBIはここに述べさせていたいただきましたような皆様の入学をお待ちしております。皆様のご理解とお祈りとご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

OB I 第13回卒業式

「先生からの贈る言葉」

賛美、祈りに次いで、増田学院長からは今年新たに7名を加えて、卒業生が155名になったことを主に感謝、OB Iの15年の歩みを振り返られた。

①絶望から信仰による希望。
②祈りに応答して、その器と報いを受けることの確かさを私たちへの励ましの言葉とされた。

次に羽鳥明・名誉学院長からは派遣の言葉が熱く語られた。「この世へサタンとの戦いに備えて、①平安があなたがたにあるよう



に。

②聖霊を受けなさい。御霊さまが導き給う圧倒的な勝利者。
③罪を赦す権威を賜った。いざ、出陣！」

更に山崎製パン株式会社社長・飯島延浩氏からは戦後60年を回顧。「心の問題は置き去りにされ、キリストの愛に飢えた今日的」状況を指摘された。自ら福音宣教の世にある戦士、世と戦う戦士と宣言された。

最後に卒業生を代表して、中島総一郎兄が「OB Iの学びを、先生を、友を感謝！

主の器として、主に仕え、教会に仕える使命」を全うすべく決意を表明された。

感謝・感動・感激に満たされた卒業式でした。

三浦秀弥
(第6期卒業生)

「卒業にあたって」

第15回卒業生 阿江 美知代

3年半前に「聖書はすべて神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのためには有益です。」(Ⅱテモテ3・16)との御言葉に押し出されてOB Iで学びを始めました。と同時にある宣教師が書いた「聖書の知識なくしては信仰の成長はありえない。」との文章を見て学ぶことができました。どのクラスでも学ぶ度に今まで知らなかった内容を知り、その度に聖書の素晴らしさ、また神様の偉大さを感情ではなく知的に理解していった満足感を今でも覚えています。他にもクラスでの生徒間の交わりや先生からの牧会を通して証しなどから励まされたことも多くありました。恵み深い主に、そして支えて下さった皆様に本当に感謝の思いでいっぱいです。

今後は学んだことを教会で役立てることができればと思っています。先生方、事務局の方々本当にありがとうございました。



来賓祝辞から

今年も山崎製パン社長飯島延浩氏がご来臨、祝辞を賜った。氏もまたOB Iの活動に多大な好意をお寄せくださり、貴い献金で支えてくださっている。

氏は経済人、経営者としてのお立場と経験からリアルタイムで捕らえた世の現状を「日本は今ようやく経済的に立ち直り始めたが、人々は心の支柱を失っている」と鋭くお話くださった。

06年度入学式・始業式から

4月10日、午後6時30分よりOCC8階チャペルで挙行されました。

式は藤原副学院長の司会、西満先生のお祈りで始まり、世良田副学院長が「OBIは昨年創立15年を祝い、信徒の教育の場として今年も活動が続けられます。現在までの卒業生は155名になりました。その中には牧師、宣教師となって働いておられる方もいます。今後さらに学院の学びを拡充させ、牧師の道も開かれるように計画を進めております。生徒の皆さんを送り出して下さった御家庭と教会、その背後にあるお祈りを感謝します」と挨拶されました。

祝辞は第一期生の三浦喜代子姉が述べられました。「15年前、子育てを終えて、開校したばかりの学院へ飛び込んできました。学院生活は期待していた以上のものでした。聖書の学びのすばらしさ、楽しさを味わい、その後も研究科で学び続け、今年16年目になりま

す。入学された皆様も神さまから清い志を与えられてここに来られたのだと信じます。学院は皆様の希望をはるかに超えて答えてくれることでしょう。学院では毎週火曜日の朝、祈禱会を持っています。皆様のためにも熱いお祈りがささげられます」

続いて遠藤かおる先生が『キリストにはかえられません』を独唱されました。

メッセージは増田学院長。「今の讃美を聞きながら、作曲者バ



音楽講師：遠藤かおる先生



学院長：増田誉雄師

リー・シェイ師を思い出していました。昔アメリカへ留学していた時、バイト先で、泥だらけの手で師と握手をしました、その後ビリー・グラハム国際大会でグラハム師と共に来られた時に再度握手する機会がありました。

OBIは福音の発信源として主から託された場所です。また、第二、第三の人生の生き甲斐発見の場でもあります。それは教える教師にとっても言えることです。

聖書学院は3Kとの出会いです。それは感謝、感激、感動です。またOBIはコロサイ3章14

節にあります『これらすべての上に、愛をつけなさい。愛は結びの帯として完全なものです』をモットーとしています。また次のみことばも学院の指針です。Ⅱテモテ2章15節『あなたは熟練した者、即ち、真理のみことばをまつすぐ解き明かす、恥じる事のない働き人として、自分を神に捧げるよう務め励みなさい』この3K学院でヨシヤ3章5節『明日、主が、あなたがたのうちで不思議を行われるから。』を体験してください。

祝辞は堀肇先生。その後、新入生の紹介がありました。本年度は本科生4名、専修科2名、聴講生6名、教会音楽科5名、一般音楽科2名、合計19名の兄弟が入学されました。

その後、福井誠教務主任によってオリエンテーションが行われました。列席者は60余名でした。

(同窓会会長・飯島多稼夫)

学窓トピックス

聖書科

新学期開講クラスなど紹介

今年3月25日、本学院聖書科は、阿江美知代姉、阿部恵子姉、日名富子姉、鈴木芳宣兄、中島總一郎兄の5名を卒業生として送り出しました。それぞれの熱心な学びが祝され、主の器として益々用いられまようお祈りいたしております。

また卒業生の芳賀功兄は、ホーリネス教団の「勸士」認定制度に応募し、その必要とされる単位の約半分を本学院で修得した単位より認めてもらいました。今後本学院履修の単位が他神学校で認定されるケースも増えてくることでしょう。

さて2006年度、聖書科は、前期、後期合わせて13科目の講座を用意しております。今年度目新しい科目としては、堀師の「家族関係論入門」、伊藤師の「比較宗教（日本の宗教を考える）」があります。また夏期は、二つの特別

講座を準備。OBI卒業生佐野謙次氏・中島總一郎氏の共同講義を本学院にて7月24～8月14日毎週月曜日の予定で、野田秀師の特別講座を軽井沢恵みシャレーにて7月10～12日の予定で開講いたします。

（教務主任・福井誠）

音楽科

新年度を迎えて

2006年度の教会音楽コースは5名の新人生をお迎えし、12名でスタートすることができました。前年度に作成した教会音楽コースの新しいパンフレットが少しずつ用いられており、感謝しております。まだ教会音楽コースの存在をご存じない信徒の方のお手元にこのパンフレットが届きますように。同窓生の皆様のお祈りによって、パンフレットを用いて本コースを広く紹介していただければ幸いです。

（教会音楽・近藤はるみ）

ネットコース

これまで本学院の授業は、お茶の水に通うことのできる人だけが受講できる時間と場所に制約され

たものでした。しかし2005年度から開講されたネットコースにより本学院で行われている授業は広く全国で受けられるようになりました。

現在ネットコースには、学院生認定コースに4名、聴講コースに3名の方々が登録履修中です。このコースは、DVD教材を視聴しレポート課題や試験課題を提出し、添削指導を受けることで単位を認定されます。このような学習はかなりの計画性と実行力を要求され、一度躓くとなかなか先に進めなかったりするものです。

そこでこのコースが、さらに履修者の円滑な学びを促進するものとなるよう、生徒の学習ニーズに合わせて講師がレポート課題や試験課題を提供するなど通学課程に近い学習が進められる新しい学習システムを導入していく予定です。夏期スクーリング中に、この新システムのオリエンテーションのみならず、学習支援のための特別講座も準備する予定であります。

（教務主任・福井誠）

ネットコースを受講して

土浦めぐみ教会員 島田裕子

わたしは以前から聖書を本格的に学びたいと思っていました。そんなとき、お茶の水聖書学院（OBI）でネットコースが始まったことを聞きました。自宅で自分のペースで学べることを知り、早速申し込みました。

神さまは、ご自分のことを聖書にあらわして、わたしたちに理解してほしいと望んでおられます。聖書を読みたくても手に入らない国があるのに、わたしの家には何冊も聖書があつて、いつでも読むことができます。それなのに、あまり熱心に読んでないし、とくに旧約聖書はわからないことだらけです。

教会学校で子供たちにお話するのにも、聖書理解が充分でないまま話さなければならぬことがあります。そんなときは、子供たちに申し訳ないと思つていました。

さつそく旧約聖書概観のDVDから講義を受けました。家においても、姿勢を正してしっかりと聞こうと思ひます。途中で挫折しないように祈りつつ。

主と教会に仕える 同窓生たち③

主の導きに従って

第11期生 甲斐 博

OBIでの学びに導かれて

聖書をよりよく理解できればと願ひ、OBIのギリシヤ語講座を受講したことが、OBIでの学びのきっかけでした。一年間の学びを終え、2、3年と学び続けているうち、教会での八街開拓が始まり、その責任を持つことになりました。それですます聖書の学びの必要を覚え、専修科から本科へと進みました。そして、いつでも主の御用に備えるため、世良田先生の旧約概論、藤原先生の説教や坂野先生の牧会学などを学び二年前卒業させていただきました。

八街開拓伝道に導かれて

五年ほど前、千葉県の八街市で、当時所属していた教会で開拓が始まり、その開拓の責任を負うことになりました。それで、独り神の前に祈るときを持ちました。その時、復活

されたイエス様が、ガリラヤ湖のほとりでペテロに語りかけたヨハネ21章15節以降の「あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」「私の小羊を飼いなさい。」の御言葉が示され、主から「八街の人々のために、あなたをささげてくれないか。」と呼びかけられていることを強く感じました。「主よ。こんな私でよければお使い下さい。」「二年間、八街開拓伝道のため自分の時間と労力をささげます。」と涙をもって応答しました。全くのゼロからの開拓でしたが、一年目に、さまざまな集會を通じて、多くの人に福音を伝えることができ、一名が救われ、求道者が二名、そして、協力を願った地域のクリスチャン数名が与えられ、7、8名程の群れができました。二年目には、所属教会から独立し、八街地域の人を中心に開拓が進められ、2名受洗し、現在は12、13名前後の礼拝出席者が集う教会として成長しております。

私は主との約束通り、平安のうちに2年で奉仕を終えましたが、その後神様は不思議なように次の奉仕者を用意され、現在その方が仕えています。

新しい職場に導かれて

私は大手の損害保険会社に勤務していましたが、OBI卒業の前年12月(当時55歳)、自分のライフワークやもっと主のお役に立つ仕事をしたいとの気持ちから、会社を退職することを決断しました。当初難色を示していた妻も最後には了承してくれました。翌年の3月にOBIを卒業、会社も退職をしました。6月からは老人保健施設を有している病院に就職しました。私にとっては新しい仕事でしたが、3月まで不思議に守られ無事仕事を全うすることができました。



今年4月より病院、老人保健施設を含めた医療法人全体の経営改革を推進するため、経理企画室の責任者に任ぜられました。主の助けを頂きながら、クリスチャンメソッドで患者や利用者に喜ばれる病院や施設となるよう、職場の皆と力を合わせていきたいと思っています。

今後の導きについて

最近「なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。」(ヨハネ6章27節)との御言葉が私の心に響いています。現在、委ねられている仕事を、単なる生活の糧を得る手段としてでなく、主の愛をもって患者や利用者および職員に喜ばれよう努めること。また近隣の人に、直接的に福音を伝えることを主が願っておられるように思われています。そのため、OBIで学んだことを再度ブラッシュアップし整えていきたいと思っています。いずれにしても今後とも常に、主の導きに忠実に従う生涯を送りたいと思っています。

『パウロの足跡を訪ねて』②

市川北ブテスト教会牧師

藤原導夫

「パウロとアテネと私たち」

今回のお茶の水聖書学院主催による「ギリシャ・トルコ・ツアー」の目的はパウロの伝道旅行の足跡を辿ることであつた。パウロが実際に歩いたであろう道を歩き、パウロが実際に訪れたであろう場所を訪れるという体験は、これまでもつていたパウロ自身やその伝道旅行に対するイメージをさらに深め、かつ豊かなものとしてくれたように思う。前号ではピリピを訪れたことを報告させていたのだが、今号ではアテネとコリントでのことを報告してみたいと思う。

成田空港から長時間かかって到着した最初の地はギリシャのアテネであつた。最近では、オリンピックが開催された場所である。古くはソクラテス、プラトン、アリストテレスを生んだ学問の都である。私たちが泊まったホテルは、あの有名なパル

テノン神殿がそびえる丘のふもとにあつた。長時間のフライトで疲れた私たちは翌日を楽しみにしながら眠りについた。

ギリシャ人で日本語を話せる女性ガイドは、私たちをまず最初にアレオパゴスの丘へと案内してく

れた。ここは、かつてパウロがアテネの人たちに説教した場所である。その時のことは「使徒の働き」17章後半に詳しく述べられていて。彼



アレオパゴスの丘での集合写真

はアテネの街が偶像にあふれているのに怒りを覚えつつ、アレオパゴスの評議所でそのような社会に住む人々に向かって説教し、ストア派やエピクロス派の哲学者たちとも論じ合つたのであつた。

バスを降りて、私たちはアレオパゴスの丘に登っていった。それ

は草木の少ないごつごつとした小さな岩山であつた。登り詰めたところになんとした広場があり、その岩壁に石版がはめ込まれ、ギリシャ語で何かが書いてあるのが認められた。ガイドは私たちをその周りに集め、それがパウロの説教であると説明した。

私はたまたまギリシャ語新約聖書を持参していたが、それに照らしてまさに使徒の働き17章22、31節の言葉そのままがそこに刻まれていることを確認した。ガイドはそれをたど

たどしく日本語に翻訳してくれたのであつた。

私たちはそこで集まって記念写真を撮り、その後各自はしばし自由行動を許されたが、私はその石版の脇にたたずみ、パウロがこの説教をした状況を想像しパウロの心境を思つたのであつた。聖書に

はその時の様子が次のように記されている。「死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑ひ、ほかの者たちは、『このことについては、またいつか聞くことにしよう』と言つた」(使徒17・32)と記されている。パウロはこのような反応にがつかりしたのであるうか。アテネと同じように八百万の神があふれている日本での宣教の難しさを思わされた。

しかし、聖書には更に続いてこのように記されている。「しかし、彼につき従つて信仰にはいった人たちもいた。それは、アレオパゴスの裁判官デオヌシオ、ダマリスという女、その他の人々であつた」(使徒17・34)。決して伝道は不可能なのではない。神様は必ず救われる人々を起こしてくださるという事実がそこにあることをあらためて覚えさせられ、アテネの地で日本の宣教のことを思いつつひとかたならず励まされたのであつた。

「パウロとコリントと私たち」

パウロはアテネでのそのような伝道を果たした後にコリントを訪ねている。私たちもパウロの後を追うようにしてコリントを訪れた。コリントと言えば、かつて学生時代に古代ギリシャの建物には「ドーリヤ式、イオニア式、コリント式」といった、特徴の異なった三種類の円柱があることを学んだことがあった。アテネで見た壮麗なバルテノン神殿の柱はまさにこのドーリヤ式であった。そして、コリントの遺跡博物館の庭にはこの三種類の円柱が置かれて見比べることができるようにしてあった。

コリントは中央ギリシャとペロポネソス半島を結ぶ地点に位置し、重要な通商路としてパウロの時代には栄えていた。この街でパウロは一年半滞在したと聖書にはある。そして、クラウデオ帝の命によりローマから退去させられてコリントに来ていたユダヤ人アク

ラとプリスキラの家に住み込んで、共に天幕作りをしながら伝道に励んだのであった。その結果として生み出されたコリント教会の様子は、パウロが残してくれたコリントの教会に宛てた二通の手紙によってある程度までうかがい知ることができる。

私たちはコリント遺跡を訪れた。

そこには巨大な7本の石柱を残したアポロン神殿跡とその周辺に広がるアゴラ（市場）跡があった。アポロン神殿は紀元前6世紀頃に完成しており、もともとは38本の石柱があっ



コリント遺跡のアポロン神殿

たそうである。アゴラは1世紀のローマ時代に設けられ、そこでは様々なものが売買されていたようである。

パウロはコリント前書において偶像に捧げた肉の問題を取り上げてい

る。偶像の神に捧げられた肉が市場で売られているかもしれない場合どうしたらよいのかという問題である。その光景を私はこれまでは頭の中で想像していた。しかし、コリント遺跡を訪れ、巨大なアポロン神殿跡やそこに横たわるアゴラ跡に我が身を置いた時に、その

ような光景が彷彿として浮かび上がった。

神殿に詣でる沢山の人々、市場の喧噪の中であふれかえっている人々、そのような様子が眼前に再現されているような思いさえもつたので

あった。

パウロはその問題に答えている。「市場に売っている肉は、良心の問題として調べ上げることではないで、どれでも食べなさい」（コリント第10・25）何と大胆で自由な信仰であろうか。しかし、

パウロは同時にこのようにも語っている。「もし食物が私の兄弟をつまづかせるなら、私は今後いつさい肉を食べません」（コリント第10・13）。この二つの相矛盾するような主張の中で、パウロは実際どのような生きたのであろうか。そして、この二つの言葉を聞いたコリントの人たちはそれをどのように理解し受け止めたのであろうか。

与えられたわずかな自由時間にアポロン神殿を近くに眺め、アゴラを散策しながらそのようなことを私は思い巡らしていた。信仰における自由と隣人への配慮はどのように折り合いを付けていけばよいのか。日本の社会にも似たような性質の問題が多くある。私自身はそれをどのように信仰的に整理したらよいのであろうか。またそのような社会に生きる主にある兄弟姉妹に対して、一人の牧師としてどのように信仰的指針や配慮を示していくことができるのであろうか。遺跡の中を歩みながら、私の心の中ではそのような自問自答が繰り返られていた。

OBI会計報告

御名を崇めます。

第5期は、創立十五周年に当り、新生OBIとして5年の節目を迎え本学院の目的であります信徒教育を効果的に遂行するために、教職者、同窓生、スタッフ一同心を合わせて事業活動に努めました。更に、山崎製パン(株)から第2回目の多額の献金を頂き、新規事業のインターネットを活用する通信教育について、教科の充実とニーズの把握に努め、目的の達成に一步前進させることができました。一方、聖書科は講座の充実とスクーリングの内容の進展を図り、音楽科は募金コンサート等行事を検討し採算性の向上を図りました。また広報に力を注ぎOBIニュースの編集を一新しOBIに対する理解と親近感の醸成を図り好評を得ております。このような状況下、今期は会計面に於いても、資金と業務の効率化を図り、別表の通り前期に対して改善することが出来ました。

今後の見込みとしては、教会の

高齢化の傾向が進み、一方若い人の献身者の減少が見られ、将来的に無牧の教会の増加が懸念されます。更にこの傾向は都市よりも地方に多くなると思います。そしてこのことは、教会を守る信徒の成長が従来に増して求められ、OBIの受持つ役割が益々期待されるものと考えられます。特に、家庭にある信徒、地方の教会の信徒、高齢の信徒、更に団塊の人たちにとっては、新規事業のネットコースの役割は重要でありますので、事業の進展を急ぎ、時代の趨勢に寄与したいと存じ、資金・人材技術を駆使し目的達成に努める所存であります。何卒関係各位の御指導、御鞭撻の程、御願い申し上げます。

◎第5期下期の特別献金御芳名録
(アイウエオ順、敬称略)
個人の献金

生島陸伸 加茂康一 五味淵玲子
坪井夏夫 藤倉充子 宮本三枝子
宮内芳枝 増田誉雄、
(二) 団体の献金
OBI同窓会

◎OBI後援会献金御芳名

維持会員

有田貞一 有田美栄子
飯嶋多稼夫 猪狩友行
小野沢恵子 金本悟 木下順子
国東恵子 窪井節子 窪田淳子
黒澤すぎの 小林喜久男
斉藤とし子 佐藤敬 佐野謙次
佐野寿美子 須子都 関節子
世良田湧侍 田中恵子
中川和代 浪井弘子 西満
羽鳥明 平松庸一 福井誠
藤原導夫 増田誉雄 増尾善文
松岡常子 三浦喜代子
三浦秀弥 宮本三枝子 森登
森本馥 依田和子 脇坂勇
山口勝政

(二) 賛助会員

阿江美知代 伊藤洋子 今村冬生
奥津晃 岡本昭世 加賀谷紀子
菊田洋子 木下壽子 古賀文子
近藤はるみ 佐野謙次 斎藤孝子
須子都 高橋伸幸・真理子
地引祺眞 中島總一郎 芳賀功
原正子 日名富子 福井ちよ
福原礼子 藤村陽子
目崎由起子 三浦秀弥
山本敏夫 吉田加代子 森登
柳沢光子
団体会員
中山教会、大峰バイブルホーム

OBI第5期財務状況
(単位：千円)

科目	金額
前期繰越金	2,038
学事収入	7,423
行事収入	2,961
献金収入	16,798
その他収入	125
収入計	27,307
当期支出	
学事支出	15,016
行事支出	2,250
経費支出	11,449
その他支出	77
支出計	28,792
後期繰越金	553